

1. 略歴

- 1983年3月 東京大学文学部国史学専修課程卒業
- 1985年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程国史学専門課程修了
- 1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程国史学専門課程中退
- 1987年4月 山梨大学教育学部講師 (歴史学)
- 1990年9月 山梨大学教育学部助教授 (歴史学)
- 1994年11月 博士 (文学)
- 1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 2002年10月-2003年2月 スイス、ジュネーブ大学招聘教授
- 2010年7月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本古代史

b 研究課題

古代天皇制、日唐律令制比較研究、摂関期国家の研究

c 概要と自己評価

日本古代の律令制を東アジア世界の中で位置付けることを目的とし、それにともない古代天皇制の解明、敦煌吐魯番文書の研究、摂関政治期の国制の解明を行っている。山中裕編『御堂関白記全註釈』全16冊の成果をふまえて、国文学研究者と歴史学研究者の共同作業によって、摂関期の史料を解説するのに役に立つ『藤原道長事典』を編集し刊行することができた。科研費をうけて長年続けている天聖令にもとづく律令制の比較研究については、唐令復原上の諸問題を整理し、佐藤信氏の退職記念論文集に執筆した。また来年の譲位を見据え、編集委員として企画した『天皇の歴史』シリーズ全10巻を講談社学術文庫から刊行することになり、最新の研究成果を追捕した。

d 主要業績

(1) 著書

単著、大津透、『天皇の歴史1 神話から歴史へ』、講談社学術文庫、2017.12

(2) 編著

大津透編、『摂関期の国家と社会』、山川出版社、2016.11

大津透・池田尚隆編、『藤原道長事典 御堂関白記からみる貴族社会』、思文閣出版、2017.9

(3) 論文

大津透、「日本古代のオホヤケ構造」、吉川真司・倉本一宏編『日本的時空間の形成』、思文閣出版、171-191頁、2017.5

大津透、「唐令復原と天聖令一賦役令を中心とする覚書一」、佐藤信編『律令制と古代国家』、吉川弘文館、471-501頁、2018.3

(4) 解説

大津透、「解説」、石母田正『日本の古代国家』、岩波文庫、537-554頁、2017.1

(5) 学会発表

国際、大津透、「日唐古文書学比較研究の一視点」、2017中国社会科学論壇(史学)第6届中国古文書学国際研討会、中国社会科学院当代研究所(北京)、2017.8.10

国内、大津透、「令集解研究の回顧と展望」、井上光貞生誕100周年記念シンポジウム「日本の律令と律令制研究」、明治大学、2017.9.30

国内、大津透、『御堂関白記』からみる藤原道長の政治権力」、陽明文庫講座「藤原道長とその時代」、セッション杉並、2018.1.27

(6) 会議主催(チェア他)

国際、「第61回国際東方学会会議」、司会・企画、シンポジウム「東アジアの中の日本文化—奈良平安時代を中心に」、日本教育会館、2016.5.20、(会議記事、『東方学会報』110、15-17頁、2016.7、Chairperson's Report、『国際東方学会会議紀要』59、pp.130-135、2016.12)

(7) 小論

大津透・池田尚隆・磐下徹・黒須友里江、「『御堂関白記』が記憶する栄華」、『鴨東通信』104、2-7頁、2017.4

大津透、「『御堂関白記』との長いつきあい―藤原道長の実像に迫る」、『歴史書通信』231号、2-4頁、2017.5

大津透、「吉田孝先生を偲ぶ」、『唐代史研究』20号、239-241頁、2017.8

大津透、「ヤマトから飛鳥へ」、『本』2018年1月号、20-21頁、2017.12

大津透、「序」、佐藤信編『史料・史跡と古代社会』、吉川弘文館、1-3頁、2018.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師（集中講義）、同志社大学文学部、2016.8

非常勤講師（集中講義）、山口大学人文学部、2016.9

(2) 学会

国内、日本歴史学会、理事代表 2014.9～2016.7、評議員 2002.7～

国内、東方学会、常務理事 2015.6～2017.6、評議員 2017.6～、国際東方学会会議運営委員